

オオジシギ（シギ科） 全長 30 センチ

今年も神宮寺にオオジシギがやって来た。大規模圃場整備事業により、1ヘクタール規模の田んぼが広がる神宮寺下川原地域。

7月26日、200メートルもある畦道の中に、1羽のオオジシギが見つかった。100メートルほど離れた草むらに佇むオオジシギ。動かなければ殆ど分かりません。頭を垂直に伸ばし、長いクチバシを斜め下向きにしてじっとしている。広辞苑ではシギが田の中などに静かに立っている様を、僧が経を読む姿に見立て、「鷗の看経（しぎのかんきん）」と言うそうです。



長い畦道で佇む。

待つこと5～6分。やっと動き出した。草むらにクチバシを右へ左へと差し込み、餌を探し始めた。地中に潜むミミズを引っ張り上げ、飲み込んだ。たっぷりと水が張られた田んぼの柔らかい土壌は、オオジシギにとって好都合なのでしょう。

今の季節は農作業も一段落し、圃場には殆ど人影が見当たりません。いつまで滞在してくれるか分かりませんが、見えなくなるまで観察を続けたいと思っている。



地中のミミズなどを探すには、長いクチバシが威力を発揮します



クチバシを開いた。

オオジシギは日本で繁殖し、オーストラリアで越冬する渡り鳥。渡りの季節がやってくると、1万キロも離れた南半球まで移動しなければなりません。

日本で体力を蓄え、元気に越冬地へ渡ってもらいたいところです。



羽の裏側はこんな模様。



風切り羽が綺麗に見えます。